

若松 弘子 (Wakamatsu, Hiroko)

学年: 5

研究領域: 生成統語論, 言語接触

所属学会: 筑波英語学会, 日本英語学会, 英語コーパス学会

受賞・表彰歴

1. IDR ユーザフォーラム 2017 企業賞(クックパッド賞) (クックパッドデータを用いた独創的な研究発表であるとして, 若松弘子・島田雅晴「料理サイトのデータから言語接触理論を考える: 前置詞 with の借入について」)
2. 2015 年度英検研究助成制度受賞

発表 (selected and recent)

個人

1. Wakamatsu, Hiroko (2018e) “Borrowing of the At Sign into Japanese,” poster presented at OSU-Tsukuba Joint Linguistics Workshop, OSU-Tsukuba Joint Linguistics Workshop, February 13, Ohio State University.
2. Wakamatsu, Hiroko (2018d) “How is the English Volitional Modal Let’s Borrowed into Japanese?” 日本英語学会第 35 回大会 (2018 年 11 月 24 日, 於: 横浜国立大学) .
3. Wakamatsu, Hiroko (2018c) “Relexification of English Let’s in Japanese,” Languages in Contact 2018, June 16-17, Wroclaw, Poland.
4. 若松弘子 (2018b) 「SCoRE を利用したハンドアウトの作成とそれを利用した DDL 実践」英語コーパス学会第 40 回大会 2018 年度春季研究会, 口頭発表 (2018 年 4 月 21 日, 於: 東京外国語大学).
5. 若松弘子 (2018a) 「日本語における英語定冠詞 the の借用について: 料理サイトのデータから」日本言語処理学会第 24 回年次大会(NLP2018), 口頭発表 (2018 年 3 月 13 日, 於: 岡山コンベンションセンター, ママカリフォーラム) .

共同

1. 若松弘子・島田雅晴・長野明子・小野雄一 (2018) 「クックパッドデータに特徴的な文字使用と外来語使用」, IDR ユーザフォーラム 2018, ポスター発表 (2018 年 11 月 28 日, 於: 国立情報学研究所) .

2. 長田詳平・若松弘子 (2018) 「『違う』の形容詞活用とその機能の分布について — 『違う』はなぜ違くなったのか? —」日本言語処理学会第24回年次大会(NLP2018), (2018年3月13日, 於:岡山コンベンションセンター, ママカリフォーラム).
3. Shimura, Haruka and Hiroko Wakamatsu (2018) “Emotional Connotations in the Present Perfect Progressive in English,” 筑波英語学会第39回大会, 口頭発表 (2018年11月10日, 於:筑波大学).
4. 若松弘子・島田雅晴 (2017) 「料理サイトのデータから言語接触理論を考える:前置詞 with の借入について」 IDR ユーザフォーラム 2017, ポスター発表(2017年12月4日, 於:国立情報学研究所).
5. Isono, Haruki, Hiroko Wakamatsu, and Ryohei Naya (2017) “Resolving Prefixation into Compounding and Inflection,” paper presented at the ELSJ 10th International Spring Forum 2017, April 22-23, Meiji Gakuin University.

論文 (selected and recent)

単著

1. 若松弘子 (2018c) 「コーパス分析(第7章)」 平井昭代 編 『教育・心理・言語系研究のためのデータ分析—研究の幅を広げる統計手法』, 東京図書, 189–219.
2. Wakamatsu, Hiroko (2018b) “A Note on the Borrowing of the English Article *the* into the Japanese,” *Tsukuba English Studies* 37.
3. Wakamatsu, Hiroko (2018a) “A Preliminary Study of Bilingual Verbs in Japanese and Polish in View of Muysken (2000),” *Data Science in Collaboration Vol.II*, ed. by Yuichi Ono and Masaharu Shimada, Tsukuba Global Science Week 2018 (TGSW2018), University of Tsukuba, Tsukuba, 91–98.

共著

1. 若松弘子・中條清美(to appear) 「学習者に適した教育用例文コーパス SCoRE の日本語対訳文に関する研究」『日本大学生産工学部研究報告 B(文系)』第52巻.
2. 若松弘子・平井明代 (2018) 「RStudio の操作とロバスト統計(第1章)」平井昭代 編 『教育・心理・言語系研究のためのデータ分析—研究の幅を広げる統計手法』, 東京図書, 2–20.
3. Isono, Haruki, Hiroko Wakamatsu, and Ryohei Naya (2018) “Resolving Prefixation into Compounding and Inflection,” *JELS* 35, 238–244

その他

1. 若松弘子 (2017) 「夏！スタミナカレーよりもさわやかカレーwith」における with についての考察』『ことばを美味しく研究しましょう—お料理サイトで言語学入門—』 [平成 29 年 8 月 10 日実施] (ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI (中学生対象)), 筑波大学.